

七

知

宋何陋如少之自命數三言在

[illegible]

石友知中

[illegible]

一

一 傳言たりし上りし書に於て事二重なる事あり
此後今我の上あり 後上上内之に於
修なりと云ふ所は我の事なりと信ぜざる事あり
事二重なる事あり

元

一 傳言たりし上りし書に於て事二重なる事あり

一 傳言たりし上りし書に於て事二重なる事あり

一 傳言たりし上りし書に於て事二重なる事あり

一 傳言たりし上りし書に於て事二重なる事あり

一 傳言たりし上りし書に於て事二重なる事あり

小園松房

一

一 傳言たりし上りし書に於て事二重なる事あり

一 傳言たりし上りし書に於て事二重なる事あり

一 傳言たりし上りし書に於て事二重なる事あり

一

一 傳言たりし上りし書に於て事二重なる事あり

一 傳言たりし上りし書に於て事二重なる事あり

一 傳言たりし上りし書に於て事二重なる事あり

一 傳言たりし上りし書に於て事二重なる事あり

一 傳言たりし上りし書に於て事二重なる事あり

一 傳言たりし上りし書に於て事二重なる事あり

合書之方

日百十

古方廻入之法

龍虎代
金書之方

可也

一書之方

金書之方

金書之方

一書之方

可也

金書之方

金書之方

一書之方

金書之方

金書之方

金書之方

一書之方

金書之方

金書之方

金書之方

一書之方

金書之方

金書之方

金書之方

一書之方

金書之方

一書之方

十一

一 此序乃前主事官所撰其言甚切乃係是
日所撰其言甚切乃係是日所撰其言甚切
其言甚切乃係是日所撰其言甚切乃係是
日所撰其言甚切乃係是日所撰其言甚切

十一

一 此序乃前主事官所撰其言甚切乃係是
日所撰其言甚切乃係是日所撰其言甚切
其言甚切乃係是日所撰其言甚切乃係是
日所撰其言甚切乃係是日所撰其言甚切

通判官所撰其言甚切乃係是日所撰其言
甚切乃係是日所撰其言甚切乃係是日所
撰其言甚切乃係是日所撰其言甚切乃係
是日所撰其言甚切乃係是日所撰其言甚

合武堂

合武堂

一 此序乃前主事官所撰其言甚切乃係是
日所撰其言甚切乃係是日所撰其言甚切
其言甚切乃係是日所撰其言甚切乃係是
日所撰其言甚切乃係是日所撰其言甚切

合武堂

合武堂

一 金武皇

二 乃以

三 乃以

四 乃以

右 乃以

七月

新 乃以

乃以

乃以

乃以

乃以

乃以

一

乃以

一

乃以

乃以

乃以

乃以

乃以

乃以

乃以

乃以

江戸より長崎へ一程備へて参上
慶應義塾七月 長崎所下

青洲

江戸所下

市

一 江戸より長崎へ参上
一 江戸より長崎へ参上
一 江戸より長崎へ参上
一 江戸より長崎へ参上
一 江戸より長崎へ参上

江戸より長崎へ参上

市

一 江戸より長崎へ参上
一 江戸より長崎へ参上
一 江戸より長崎へ参上
一 江戸より長崎へ参上
一 江戸より長崎へ参上

江戸より長崎へ参上

江戸より長崎へ参上

江戸より長崎へ参上

おれんがはなをききしとき
存るはなをききしとき
おれんがはなをききしとき

寛政三年七月
安永三年

一、寛政三年七月
安永三年

一、寛政三年七月
安永三年

一、寛政三年七月
安永三年

一、寛政三年七月
安永三年

一、寛政三年七月
安永三年

一、寛政三年七月
安永三年

一、寛政三年七月
安永三年

[illegible]

五子先生集
卷之四

7

[illegible]

片玉内伝傳山神神 石伝年々石内
伝伝表板石内

金百粒を友

石親贈題

景必石内

伝傳石内石内

石内

石内石内石内

石内石内石内

石内

石内石内石内

石内石内石内

石内

石内

石内

石内石内石内

石内石内石内

石内石内石内

石内石内石内

石内

石内石内石内

石内石内石内

海に身を投ずるはたゞの力なり 中の人

かゝる人あり

日々をくちくちとくちくちと

一歩一歩を歩みし人あり 此れは世に稀なり 此れは世に稀なり

此れは世に稀なり 此れは世に稀なり 此れは世に稀なり 此れは世に稀なり 此れは世に稀なり 此れは世に稀なり 此れは世に稀なり 此れは世に稀なり 此れは世に稀なり 此れは世に稀なり

此れは世に稀なり 此れは世に稀なり 此れは世に稀なり 此れは世に稀なり 此れは世に稀なり 此れは世に稀なり 此れは世に稀なり 此れは世に稀なり 此れは世に稀なり 此れは世に稀なり

ハ目々

中村 山本 月田

石の刻を惜しむ人あり 此れは世に稀なり 此れは世に稀なり 此れは世に稀なり 此れは世に稀なり 此れは世に稀なり 此れは世に稀なり 此れは世に稀なり 此れは世に稀なり 此れは世に稀なり 此れは世に稀なり

印

張の五上言の松を我も重し

一 今も其時節也と云ふ方々の古訓也
通やるとも云ふ所緒を又列せし

一 上水所度利金を其高に給ふなり
通ふと云ふ事なりと云ふ

一 左衛門下及右衛門の利金可久人
中身の時節に不審なる事と云ふ

一 此年ハ此の所緒を其高に給ふなり
此の事ハ通ふと云ふ事なりと云ふ

一 井上江の事ハ其高に給ふなり
作所ハ其高に給ふ事なりと云ふ

一 此の事ハ通ふと云ふ事なり
此の事ハ通ふと云ふ事なりと云ふ

一 此の事ハ通ふと云ふ事なり
此の事ハ通ふと云ふ事なりと云ふ

一 此の事ハ通ふと云ふ事なり
此の事ハ通ふと云ふ事なりと云ふ

一 此の事ハ通ふと云ふ事なり
此の事ハ通ふと云ふ事なりと云ふ

一 此の事ハ通ふと云ふ事なり
此の事ハ通ふと云ふ事なりと云ふ

一 此の事ハ通ふと云ふ事なり
此の事ハ通ふと云ふ事なりと云ふ

世宗皇帝御製詩集卷之四

七

一 皇極經世一書後令其子孫守之而勿失也
此書乃陳希範所著其書乃其子孫守之而勿失也

世宗皇帝御製詩集卷之四

一 皇極經世一書後令其子孫守之而勿失也

一 皇極經世一書後令其子孫守之而勿失也

一 皇極經世一書後令其子孫守之而勿失也

一 皇極經世一書後令其子孫守之而勿失也

世宗皇帝御製詩集卷之四

一 皇極經世一書後令其子孫守之而勿失也

世宗皇帝御製詩集卷之四

七

一 皇極經世一書後令其子孫守之而勿失也

此書乃陳希範所著其書乃其子孫守之而勿失也

此書乃陳希範所著其書乃其子孫守之而勿失也

此書乃陳希範所著其書乃其子孫守之而勿失也

世宗皇帝御製詩集卷之四

一 皇極經世一書後令其子孫守之而勿失也

世宗皇帝御製詩集卷之四

世宗皇帝御製詩集卷之四

世宗皇帝御製詩集卷之四